金 并

傎

光 昭 君 君

作 作 詇 Ш

悠遠き日 北たぐに国に 吾は来たり 四の詩の都 りぬ にあこが れて

あ

かつきは

の

清がめい 新らしき 喜 びに満つ の森蔭深く訪ね来て しき小川の畔

美る は

やはらかき緑

の 芝 生

、なむ石狩の

雄ぉ 大ほ 曠野に打建てし いなる先人が 7足が と 跡と

星辰清きエルムの学園に甦へりたる光栄あれ伝統の法燈四十三回記念祭巡りて

の音は高く鳴るな

夢にけむ 雪解なる陵に 二春を魂の故郷に契りては 花香る青史の光栄よ 恋ひ慕ふ意気と血汐 れ n このぼ

りて ゟ

培はん尊き遺訓

久遠の山河 青春の高遠き理想を抱きては恵むなり真理の秘奥 森蔭に心情は燃えて 悠久の時の移ろひゆうきゅう 仰ぎ見よ秀でたる

進まなむ厳しかる道